

飛騨農林事務所の普及活動状況（令和7年9月末現在）

今月の重点活動

■ぶどう シャインマスカット試食会を開催

近年、高山市内では若手を中心にぶどう栽培が広がっており、特に、高単価で需要も高いことから、シャインマスカットの栽培面積が増えている。シャインマスカットの収穫は9月中旬から始まり、旬を迎えるこの時期に合わせて、産地のPRや品質向上を目的として、9月22日、飛騨高山高校にて、シャインマスカット試食会が開催された。

当日は、シャインマスカット生産者、飛騨高山高校の教諭、生徒らが参加し、5名の生産者から提供のあったシャインマスカットを試食するとともに、美味しさや皮の硬さなどについて評価した。また、評価結果をもとに、栽培環境との関係などについて参加者間で意見交換を実施した。

農業普及課からは、皮の硬さや玉張りなどに影響を与える栽培環境について情報提供した。

農業普及課では、今後も、シャインマスカットを含めたぶどうの安定生産、品質向上に向けた栽培技術支援及び情報提供等を行っていく。



【試食会の様子】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■担い手 関係機関と連携し、新規就農者の状況確認

農業普及課が構成員として参画している高山市就農支援協議会は、9月5日、9日、11日、12日、16日に市内の新規就農者21名を巡回し、就農状況を確認した。

当日は、就農支援協議会のメンバーが新規就農者に対して、日々の営農状況や現在抱えている課題等についてヒアリングを実施した。新規就農者は高い意欲で営農に取り組んでおり、技術の習得は順調に進んでいる様子がうかがえた。

農業普及課では、新規就農者の定着及び経営安定に向けて、就農支援協議会と連携しながら、継続して支援していく。



【就農状況確認の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■夏秋トマト 猛暑の中、出荷折り返し～「飛騨トマト」中間目揃え会開催～

管内の夏秋トマト産地では、連日の記録的な猛暑の中、8月の出荷最盛期を終え、折り返しを迎えている。厳しい気象条件においても、生産者、JAひだ等関係機関の連携と努力により、高品質な「飛騨トマト」の出荷が続けられている。

こうした中、9月上旬には飛騨蔬菜出荷組合において、中間目揃え会が開催され、出荷規格や今後の栽培管理の注意点について確認がされた。また、農業普及課からは、高温条件下で増加傾向にある土壌病害への対策として、資材消毒や土壌消毒など収穫終了後の作業について情報提供した。

農業普及課では、今後も環境条件に合わせた肥培管理や病害虫対策など、猛暑や環境変化に負けないトマトの安定生産を支援していく。



【中間目揃え会の様子】

■宿儺かぼちゃ 第21回宿儺かぼちゃ品評会を開催

飛騨高山のブランド野菜である宿儺かぼちゃが出荷最盛期を迎え、地域のスーパーや直売所のみならず、都市圏のスーパーでも販売され、秋の食卓を彩っている。

9月3日には第21回宿儺かぼちゃ品評会が開催され、梅雨明け後の長い猛暑にも関わらず、生産者の不断の栽培管理により、非常に高品質かつ手間の掛かった43点が出品され、部門別に行政や市場関係者、JA職員による厳正な審査が行われた。

さらに、本年度から生産者を募集し本格的な栽培を開始した「宿儺のめぐみ」も同時に品評会を行い、21点の出品物が揃った。

品質が高いものが多く出品され、審査の結果、入賞として一般部門6名、その他部門3～5名ずつが選出された。

農業普及課では、今後も研究会と連携し、研修会を通じて高品質な宿儺かぼちゃの安定生産に向けた支援を実施していく。



【品評会の審査風景・知事賞入賞品】

■春菊 春菊検討会を開催（吉城地域）

9月12日、吉城蔬菜出荷組合春菊部会の春菊検討会が開催され、生産者7名が出席した。

現在、春菊では病害虫が多発しており、特に病害の発生が問題になっている。検討会では、参加した部会員同士が活発に意見を交わし、防除技術について知識を深めた。農業普及課からは、今後の気象条件を加味し、問題になっている病害を中心に、防除対策について指導を行った。

農業普及課では、今後もJAひだと連携しながら栽培指導を継続し、春菊の安定生産を支援していく。



【検討会の様子】